

連載企画 SDGs 取り組み事例紹介

藤野興業株式会社

～エッセンシャルワーカーとして街を守り続ける～



【会社概要】

1965年（昭和40年）大阪府富田林市に創業。業務内容は管路更生事業をはじめ、一般廃棄物収集・運搬、リサイクル事業（中間処理）などを幅広く手掛け、生活関連社会資本の整備事業を通じて地域環境に深く貢献している。

そのSDGs宣言の目標には、■くらしの「いつもずっと」を支えます ■持続可能な社会、そしてカーボンニュートラルの実現へ ■働きやすい職場づくりと社員の成長支援を掲げて、専門のコンサルタントとも相談しながら着実に進めている。

【話し手】

藤野興業(株) 代表取締役 藤野正勝

—SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

コロナ禍において世の中の多くの経済活動が抑制される中でも、当社が行っている業務すなわち管路更生事業、一般廃棄物収集運搬、リサイクル事業などは、ずっと止まることなく操業を続けてきました。期せずしてその状況が、我々は、紛れもなくエッセンシャルワーカーなんだと改めて気付かせてくれました。そのような時に、コンサルタントのりそな総合研究所からSBT (Science Based Targets)*という温室効果ガス削減目標に取り組みませんか、という提案を頂いて、自分達の意識付けのためにも同意し、進めていくことにしました。そして、外部の目から見て当社が行っている業務がSDGsの17目標のどこに当てはまるのかを検証してもらいました。

—管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えて下さい。

次世代に健全な管路を残すことは恩返しであり恩送りでもあると思っています。現在、管路更生事業は当社の主力の1つでありまして、近

隣自治体の 住み続けられる街づくりにより貢献していきたいとの思いから下水道管路施設包括管理業務 (PPP/PFI) にも参画いたしております。

当社でも外国人の雇用なども行ってはいますが、今後も人口増があまり見込まれない環境の中で、品確



❖ SBTとは❖

パリ協定が求める水準と整合した、5~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のことで、SBT 設定は温室効果ガス削減に関する唯一の国際的な認定で、SBT イニシアティブ (CDP・UNGC・WRI・WWFの4つの機関による共同運営) により、企業や団体が設定した温室効果ガス削減目標に認定が行われています。

協の管路更生大学のような取り組みはとても大切だと思いますので、是非、関西でも行ってもらいたいですね。管路更生がSDGsに資する事業という視点は、学生にも強くアピールするものだと思います。また普段、一般の人達にはほとんど知られていない管路更生工事ですが、その概要を少しお話するだけで興味を持たれる人も多いので、工事看板などにもSDGsの要素を取り入れて積極的にアピールしたいと思います。

—SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社はリサイクル事業の中で、廃ガラスのリサイクルに特に注力しています。透明や茶色のびんは従来よりカレット（いったん破碎した状態の「ガラス屑」）として再利用されていましたが、緑や青などのその他の色びんはリサイクルされず埋立処分されていました。それをエッジレス加工して砂状にし用途開発を模索する中で、大阪大学や大阪工業大学、NPO等々と様々なご縁をいただき、土木利用や農業利用

〈びんを砂状に加工した製品〉



❖ブルーカーボンとは❖

ブルーカーボンは、海藻や海草、植物プランクトンなどが主に光合成によって、大気中から二酸化炭素を取り入れ、それを生物が利用するという一連のプロセスの中において、海洋生態系に吸収され固定される炭素のことです。陸上に存在する森林などに蓄積される炭素であるグリーンカーボン（Green Carbon）の対語で、2009年に国連環境計画（UNEP）によって命名されました。

集で始まった「アドプト・ロード・プログラム事業」に当初から参加していて、市内の道路-甲田桜井線（800m）をいつもキレイに保つため毎週1回清掃する取り組みを既に400回以上ずっと続けています。作業中には市民の人達からお声掛けを頂くなど温かい人との交流につながり、社員もはりきって作業を行っています。



の道が開かれてきました。今年度は海中植物であるアマモを植樹するための藻場造成に、天然砂の代用として弊社のFRサンドを使い実験する予定です。この取り組みはブルーカーボン*オフセットの対象となるものです。

また、地域貢献活動として2012年に富田林市の募

〈瀬戸内海のアマモ〉



—貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

冒頭で申し上げましたように当社はパリ協定が求める水準と整合した中長期の温室効果ガス（CO₂）排出量削減目標として、4.2%/年削減を設定していますので、2020年を基準年として、10年間で42%削減

〈アドプト・ロード・プログラム事業の清掃活動〉



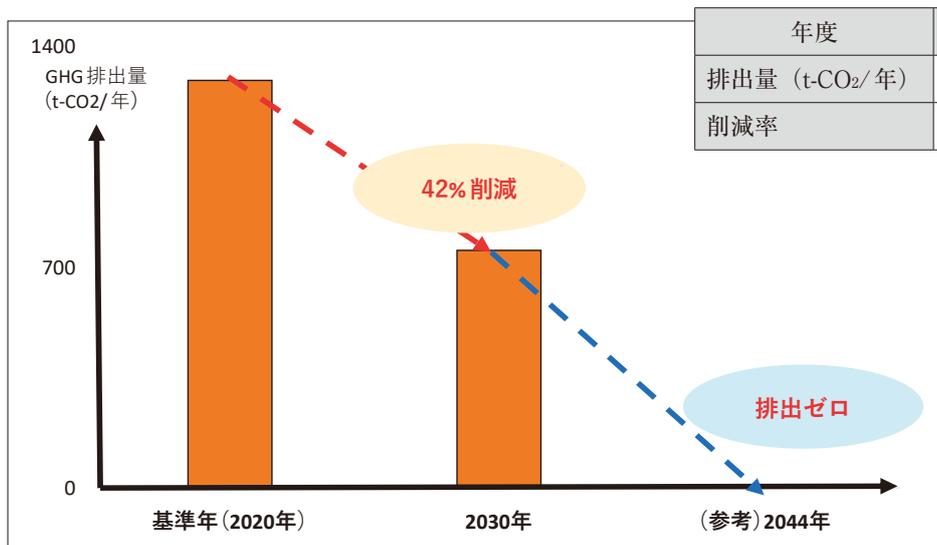
が目標です。当社では目標達成に向けて、工場等で使用する電気を2022年に実質再生可能エネルギーと認められるメニュー（関西電力「再エネECOプラン」）に切り替えました。

これによって、年間およそ180t-CO₂のCO₂排出量が削減できました。このような取り組みを重ねて、今後も業務用車両の低燃費車への転換や省エネ設備の導入等を推進してまいります。

〈業務用車両の例〉



〈ガラス集成材〉



年度	2020年	2030年	2044年
排出量 (t-CO ₂ /年)	1,298	753	0
削減率	—	4.2%	100%

〈SBT目標達成に向けた削減イメージ〉

藤野興業 SDGs宣言



当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■ 暮らしの「いつも ずっと」を支えます

わたしたちの仕事は1965年にバキュームカー1台のし尿汲み取り業務から始まりました。創業から57年、わたしたちは社会の要請に応えながら、浄化槽管理、一般廃棄物収集運搬・中間処理・リサイクル、下水道管更生・改築、給排水設備管理、高速道路関連施設の清掃など、広い分野にわたって事業を行うようになっていきます。わたしたちの仕事はいつでもライフラインや公共インフラを支えるために欠かせない重要なものです。

これからも、自治体をはじめとする多くのパートナーとの連携により、人口減少や公共インフラの老朽化、人手不足への対応など、新たな社会課題を解決するための取り組みを行い、人々の生活と社会基盤を支え続けます。



【具体的な取り組み】

- ・一般廃棄物 収集 運搬、浄化槽管理、し尿・浄化槽汚泥収集運搬
- ・合併浄化槽整備事業（富田林市 PFI事業委託）
- ・給排水設備維持管理、アイズビグ管内洗浄工法による配管洗浄サービス
- ・下水管調査・補修・更生工事（全国）
- ・下水道管路包括的管理事業委託等（河内長野市・大阪狭山市・堺市・富田林市）
- ・高速道路関連施設清掃・緊急対応
- ・災害発生時の支援協定（富田林市・河内長野市）、震災・水害発生 時の被災地支援
- ・リサイクル工場への社会見学受け入れ、イベント開催時のワークショップ実施
- ・アドプト・ロード・プログラム（地域の道路清掃）の継続実施

■ 持続可能な社会、そしてカーボンニュートラルの実現へ

わたしたちが行っている一般廃棄物収集 運搬・中間処理・リサイクル事業は、環境負荷低減・資源の有効利用において重要な役割を果たしています。また、2022年には自社の事業活動にともなうCO2排出量を算定し、2030年までの削減目標を設定しました。今後も持続可能な社会やカーボンニュートラルの実現を目指して、サーキュラーエコミー（循環経済）や気候変動対策に貢献してまいります。



【具体的な取り組み】

- ・一般廃棄物収集 運搬・中間処理（プラスチック、びん・缶・PET）
- ・廃ガラスリサイクル、産官学連携によるリサイクル製品の用途開発（リサイクル製品の開発・販売）
- ・クリーンエネルギーの導入（太陽光発電設備の設置・使用電力の再エネ化 100%）
- ・CO2排出量算定・削減目標の設定（中小企業向け SBT 認定取得）

■ 働きやすい職場づくりと社員の成長支援

わたしたちの仕事は人々の生活と社会を支えるために必要不可欠な仕事（エッセンシャルワーク）です。会社では、社員がそれぞれの仕事の重要性を認識し、やりがいを感じつつ仕事を続けられるようにするため、安全・安心で働きやすい環境の整備に努めるとともに、段階的なOJTや資格取得等により一人ひとりの成長を支援しています。今後は女性活躍・次世代育成支援、DXによる業務効率化等にも取り組み、さらに働きやすい職場づくりを進めます。また、社員の働き方を確実に適切なものにすることを目的として、健康経営優良法人の認定取得を目指します。



【具体的な取り組み】

- ・業務における身体的負担軽減策（感染予防 / 熱中症防止等）
- ・社員の成長支援（段階的 OJT / 資格取得・講習受講 支援）
- ・社内木鶏会の導入による人間力の形成
- ・DX導入による業務効率化の検討
- ・女性活躍・次世代育成のための支援
- ・健康経営優良法人認定に向けた取り組み



藤野興業株式会社

2023年4月1日

